



チャンスを活かして 変化を生み出す

謹賀新年



秋田県商工会連合会

会長 大森 三四郎

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

令和7年の商工会は「商工会成長プラン」の4年目として、次の2点を重点に活動してまいります。

まず、企業支援では「人手不足」「価格転嫁」「生産性向上」「事業承継」「デジタル化」などに対応するため、国の「事業環境変化対応支援事業」を活用し、相談員の増員や専門家派遣など、万全の体制を整えてまいります。また、地域活性化では、「秋田の未来を創る協議会」が、次の4つのテーマで、行動してまいります。

- ・ 東能代駅から能代駅間の「スイッチバック化」の実現
- ・ 秋田港をはじめ県内港を結ぶ交通網の整備
- ・ 将来の産業界を支える人材の育成
- ・ 県南の「食と文化」に関する広域観光の強化

このように企業支援と地域活性化をバランスよく実施し、「地域の活性化なくして事業者の発展はない」の実現に向け、取り組んでまいります。

そのキーワードは「結束」「継続」「共栄」です。

会員の皆様のご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

Contents



特別企画
佐竹知事と大森会長の
対談



地域経済活性化の取組
今年の抱負



第64回
商工会全国大会

商工会の
要望活動

2025年1月発行

Vol.606

秋田県商工会連合会報

奇数月1日発行
発行日/令和7年1月1日
(昭和45年12月3日第3種郵便物認可)



特別企画 佐竹知事×大森会長 対談

将来の明るい秋田に向けて



令和5年10月23日「秋田の未来を創る協議会」設立会議
協議会の最高顧問(中央)と共同代表

大森 まずは、任期中、商工会活動に多大なる御理解と御支援をいただいたことは、県内各地域の事業者にとって、心強いものであり、この場を借りてあらためて感謝申し上げます。

また、佐竹知事さんには、令和5年に設立した「秋田の未来を創る協議会」(以下協議会という。)の最高顧問に就任いただきました。

現在協議会では、「明るい秋田の実現」に向け取組を進めております。

今回は、令和7年新春の県連会報の発行に当たり、将来の秋田県経済の可能性について佐竹知事にお話を伺いたいと思います。

再生可能エネルギーについて

大森 県では、再生可能エネルギー関連産業の振興に力を入れており、その中でも、洋上風力発電については、全国に先駆けて事業化が進んでおります。

再生可能エネルギー関連産業の振興に着目した経緯と現在の取組状況をお聞かせください。

佐竹 風が強く、遠浅の海底地形が続く本県沖の海域は、洋上風力発電の導入に適していることから、県では、平成25年度に関係団体による研究会を立ち上げ、国による法整備に先駆けて導入に向けた課題や方向性の整理を行い、平成26年度には候補海域を設定して導入拡大に取り組んできました。



佐竹知事

現在は、能代港・秋田港で稼働中の港湾区域内に加えて、全国最多の4つの一般海域で運転に向けた準備が進んでおり、国による浮体式洋上風力発電の実証事業にも本県沖のプロジェクトが採択されています。

また、関連産業の振興に向け、風車メーカー等とのマッチングや技術開発等への支援なども行っており、風車に設置する航空障害灯や荷役作業のためのクレーン、風力発電技術者向けの作業服など、県内企業の参入も進んできています。

洋上風力発電の導入を本県の持続的な発展につなげるため、関連産業の集積・振興に向けた取組を、引き続き進めてまいります。

大森 お話をうかがって中小企業にとっても大きな可能性を感じることができました。

商工会としても洋上風力に隣接する地域だけでなく、県内全域の事業者が参入できるよう支援してまいります。

農林水産振興について

大森 次に、農林水産振興についておうかがいします。

秋田県は、食料自給率は全国2位であり、全国有数の食料供給県であります。

一方で、担い手不足や収益力が低い等の課題もあると聞いております。

商工会でも、サーモン養殖事業の後押しなど農林水産物のブランド化や農商工連携による農業関連商品の開発及び高付加価値化に取り組んでおります。

農林水産産業の振興について、課題と今後どのように取り組んでいくかお聞かせください。

佐竹 広大な農地を有する本県としては、これを大きな強みとして有効に活用し、農産物を安定的に供給していくことが、我が国の食料供給基地としての責務だと考えています。

一方で、担い手の減少や高齢化が進行していることから、まずは、現状の生産力を維持していくことが喫緊の課題です。

このため、担い手となる経営体の育成強化を図るとともに、基盤となる圃場整備と農地集積の推進、スマート農業技術の普及拡大などに取り組み、生産性の向上と経営の効率化を図っています。

また、秋田米の旗艦品種である「サキホコレ」や、オール秋田の黒毛和牛「秋田牛」等のブランド力向上、全国トップクラスの産地となっている「ねぎ」や「しいたけ」をはじめとする園芸品目の生産拡大を推進することで、収益性の高い複合型生産構造への転換をさらに加速化させていきます。

さらに、林業・木材産業については、「カーボンニュートラルへの挑戦」を県の重要テーマに掲げており、「伐って、使って、植える」の資源循環を念頭に、再造林の促進や林内路網の整備、木材製品の加工・流通体制の整備など、森林資源の循環利用と県産材の利用拡大を推進してまいります。

水産業についても、サーモンやトラフグ等の蓄養殖技術の確立を進め、生産・流通の拠点となる漁港施設の機能強化や、海洋環境の変化に対応した新たな漁法の開発等に取り組むことで、漁業生産の安定化を図ってまいります。

大森 商工会でも、このチャンスを活かし、農林水産業者と連携を強め、農林水産物の付加価値向上に取り組んでいきたいと考えております。

観光振興について

大森 観光振興についてもおうかがいします。

秋田県には、田沢湖、温泉などの「自然」、稲庭うどん、日本酒などの「食」、川連漆器などの「伝統工芸」、かまくらや盆踊りなどの「文化」等が豊富で、魅力的な観光コンテンツが多くあります。

一方で、現状では観光コンテンツごとの単独の取組にとどまっており、「通過型」で観光消費額が少ないといった問題もあります。

観光振興について、課題と今後どのように取り組んでいくかお聞かせください。

佐竹 県内観光産業の持続的成長のためには、繁閑の平準化や観光消費額の拡大に取り組むことが重要です。

県では、近年、地域とともに冬季観光の底上げに注力しており、雪遊びなど雪国ならではの魅力を活かした誘客に取り組んでいます。観光消費額の拡大には観光コンテンツの質と量を充実させ、周遊を促して観光客の滞在時間を延ばすことが不可欠です。引き続き市町村等と連携し、自然や食、伝統文化など、地域にある様々な資源を掘り起こし、魅力あるコンテンツに磨き上げるとともに、広域的な観光ルートとして国内外にアピールしてまいります。

また、冬季やインバウンドの宿泊需要を取り込むため、

露天風呂付き客室への改修など宿泊施設における高付加価値化の取組を支援しています。

今後も、地域や事業者等と連携しながら観光地としての魅力を高めることで、通年の需要を創出し、観光消費額の拡大に努めてまいります。

大森 商工会でも、県内の「自然」、「食」、「伝統工芸」、「文化」の観光コンテンツをネットワーク化し、観光を「通過型」から「周遊宿泊型」に転換し、観光消費額の増加につながるよう努めてまいります。

今後の秋田県経済に期待すること

大森 これまで秋田の可能性について、3つの点からおうかがいしました。

最後に、今後の秋田県経済に期待することについて佐竹知事さんの思いを聞かせてください。

佐竹 県では、これまで、航空機や自動車関連産業、新エネルギー関連産業、情報関連産業、医療福祉・ヘルスケア関連産業など成長分野の産業集積を図るとともに、企業間連携による新たなサプライチェーンの構築や、地域経済を牽引する企業の創出・育成など、産業構造の重層化を推進してきました。

こうした中で、世界を席卷しつつあるカーボンニュートラルの流れは、産業構造の劇的な変化をもたらしており、風力発電等の導入において、日本のトップランナーである本県にとっては、追い風ともいえるべき時代を迎えております。

新エネルギーの供給基地としてのポテンシャルを最大限に生かし、関連産業への県内企業の参入が拡大し、サプライチェーンが構築されることで、沿岸部にとどまらず、県内全域にその波及効果が及ぶことや、再エネ活用が高い半導体関連企業などの立地が進むことを大いに期待しているところです。

また、産業構造や社会構造の大きな転換期においては、今後拡大が見込まれる産業、衰退を余儀なくされる産業、必ず明暗が分かります。

さらに、人口減少が進み、マーケットの縮小が避けられない中にあることは、地域内で複数の事業者が同一のサービスを提供していくにも限界があり、旧態依然の経営体質から転換も図っていくことが求められます。

こうした時代の変化をチャンスと捉え、新たな発想で、積極果敢にチャレンジできる環境を作っていくことにより、秋田の可能性はさらに開花すると確信しております。

商工会には、地域経済をリードする存在として、これまで培ったネットワークや柔軟な発想で、事業者の新たな挑戦や可能性に向けた取組を後押ししてもらい、ふるさと秋田の未来を牽引していただきたいと思います。

大森 大変力強いメッセージをいただき、ありがとうございます。

引き続き、「商工会成長プラン'22-26」に基づき、「事業者」と「地域」の発展のため取り組んでまいります。

本日は貴重なお話をありがとうございました。



大森会長

商工会長が今年の抱負を語る～地域経済活性化の取組～

「商工会成長プラン'22-26」は、5年計画のうちの4年目を迎えます。このプランの目玉は、各商工会が創意工夫して取り組む地域経済活性化の取組です。

かづの商工会

- ニューノーマル・働き方改革のためのDXの推進
- 連携で生み出すイノベーションの推進



会 長
大里 恒明

抱 負

「スキーと駅伝のまち」を掲げる当地域には、働きながら競技を続けたいというニーズが競技者から寄せられています。商工会では、「無料職業紹介所」を開設し、人手不足で悩んでいる事業者と競技者とのマッチングを図ります。

北秋田市商工会

- 北秋田市の観光資源を活かした交流人口拡大策の推進
- 域外需要の獲得を目指した北秋田市特産品ブランドの確立



会 長
藤岡 茂憲

抱 負

評判の高い特産品はあるが「北秋田ブランド」の確立に向けては、統一的な商品改良と認知度向上が課題となっています。商工会では、イオンタウン鷹巣と販売戦略チームを結成し、物産展の開催を通じて課題解決に取り組めます。

大館北秋商工会

- 新成長産業との関わり強化と地域資源の活用による稼ぐ力の強化
- 地域との協働で実現する地域内の経済循環の向上と社会貢献事業の推進



会 長
吉原 秀吉

抱 負

地域資源であるえだまめと馬肉を活用した大館の新名物コロッケ「館(だて)コロ」の商品化に取り組んでいます。今年、福祉施設と連携する「商福連携」によって相乗効果を生み出し、製造販売の確立と拡大を目指します。

上小阿仁村商工会

- 上小阿仁の農林資源を活用した地域活性化施策の推進
- 道の駅かみこあにを核とした域内市場産業の強化



会 長
佐藤 真二

抱 負

当地域では豊富な森林資源や地場産品の有効活用が課題です。国際規格のCOC認証木材を使用した木工品、特産物の食用ほおすき等を使用した商品開発を支援し、道の駅を核として販路拡大に取り組めます。

二ツ井町商工会

- 「道の駅ふたつ井」から街なかへの回遊性向上による交流人口の増加



会 長
菊池 豊

抱 負

昨年は、「道の駅ふたつ井」が移転6年で来場者600万人を達成しました。また、きみまち阪公園開園100周年を迎えて記念事業も盛大に行われ、地域が大変賑わいました。この流れを活かして、街なかに少しでも多く誘客できるよう取り組んでまいります。

三種町商工会

- 三種町の環境変化への挑戦
- デジタル技術を活用した三種町の競争力強化



会 長
田中 洋平

抱 負

今年は、地域経済及び地域コミュニティの活性化を目的に、地域通貨の導入を目指します。この地域通貨を通して、三種町の経済循環を図るとともに、これからの新たなまちづくりを模索します。

藤里町商工会

- 藤里の地域経済を支える観光産業の構築



会 長
細田 誠

抱 負

白神山ブランドを生かした特産品開発の機運が高まりつつあります。近隣商工会や地元観光協会と連携して、ご当地お土産品の開発、それを活用した誘客と外貨獲得に向けて活動してまいります。

白神八峰商工会

- 政官財の連携による八峰町の総合力で地域活性化への挑戦
- 大手民間企業等と共存共栄を目指した八峰町活性化活動の推進



会 長
大森 三四郎

抱 負

漁業では輝サーモンの養殖事業を、農業では帝国ホテル通販サイトで扱われている椎茸「黒煌^{こくこう}艶麗^{えんれい}」を、商工業では観光中心の取り組みを、4年目を迎えた「町づくりと経済の未来を創る協議会」の活動で大いに活性化させていきます。

男鹿市商工会

- 男鹿駅周辺を核とした地域経済活性化
- 男鹿の魅力を活かした観光地づくりの推進



会長職務代行者
嵯峨 祥夫

抱 負

男鹿市中心部の宿泊施設開業や船川港港湾計画改訂などによるビジネスチャンスが到来しています。秋田県や男鹿市、関係機関と連携を強化し、男鹿駅を中心とした賑わい創出や観光コンテンツ開発を推進します。

湖東3町商工会

- 湖東の地場産品、地場産業の高付加価値化の推進
- 湖東の特徴を活かした関係人口拡大策の推進



会 長
湊 一

抱 負

観光資源を活用した3町の回遊性を高める事業を継続して行っており、行政とは新たな観光事業を検討しています。今年は、530年の歴史がある朝市にゆかりのある「市神祭」と3町の観光資源等を連携させ、交流・関係人口の拡大を推進していきます。

潟上市商工会

- 地域資源である食と観光の魅力に着眼した潟上経済活性化
- 持続的に稼げる企業創出による潟上産業活性化



会 長
千田 清隆

抱 負

昨年は、潟上市認証特産品をリーフレットを活用して、県内外への周知に努めました。

今年は、市ふるさと納税制度との連携や贈答品向けの販売などにより、域外への販路拡大や新規顧客の獲得を目指します。

河辺雄和商工会

- 「芸術の里かわべゆうわ」プロジェクトの理念の実現
- 地域の基幹産業を担う農業関連事業者への充実した支援（農商工連携）



会 長
木村 昌永

抱 負

今年は、アーティストの誘致とネットワーク化をさらに推進して、交流人口の拡大を目指します。また、農業関連事業者と商工業事業者の連携によるビジネスチャンスを創出し、会員企業の持続的発展にもつなげていきます。

由利本荘市商工会

- デジタル社会・企業の実現に向けた由利本荘地域DXの推進
- メガインフラを活用した由利本荘市経済の活性化



会 長
佐藤 久美

抱 負

鳥海ダム建設工事による作業員が増える中で、飲食でくつろげる店舗の情報がほしいとの声が届いています。「ふらっとゆりほん」へのクーポン設定やSNS活用により、新規顧客獲得に悩む事業者と作業員をつなぎます。

にかほ市商工会

- “ものづくり”を起点としたにかほ市経済における好循環の推進
- コミュニティビジネスによるにかほ市の内需拡大の推進



会 長
齋藤 聡

抱 負

関係団体と共に、にかほ市の地域産品の認知度向上と交流人口の創出に取り組んでいます。商工会では、青年部・女性部及び出前商店街との連携による「にかほマルシェ」を開催し、地域産品の魅力発信と地域の賑わいを創出していきます。

仙北市商工会

- 仙北市の魅力を活かした域外需要獲得の推進
- 仙北市商工会ならではの観光交流人口拡大の推進



会 長
櫻田 賢太郎

抱 負

東京都町田市で開催される仙北市観光物産展「山の楽市」は、今年で8年目を迎えます。この物産展を通じて、企業の販路開拓、観光交流人口のさらなる拡大を目指します。そして、当市に訪れる観光客の満足度向上にも全力で取り組んでいきます。

大仙市商工会

- 一次産品に付加価値をつけた大仙ブランドの確立
- 花火の“まち”大仙の確立



会 長
長澤 典雄

抱 負

コロナ禍を経て、“花火のまち”大仙にも県内外を問わず、海外からも多くの方が訪れるようになりました。一次産品の高付加価値化による商品づくりと来訪者への訴求力向上を推進し、事業者のビジネスチャンス拡大に繋がります。

美郷町商工会

- 主要産業である農業との組織的な連携の推進
- 美郷町ならではの交流人口拡大策の推進



会 長
檜森 吉裕

抱 負

事業者と農業者をつなぐスマホで取引できる「美郷町商工会LINEマルシェ」を立ち上げました。それを利用して、新たなビジネスの創出、事業者と農業者の連携の推進を進め、地域経済の活性化につなげます。

よこて市商工会

- 豊富な「よこて資源」を活かしたビジネス創出
- 事業者サービス向上のための新たな指導拠点の整備



会 長
深澤 重俊

抱 負

新本所を核とした会員のデジタル化支援とともにペーパーレス会議システム等で業務効率をさらに向上させます。また、農産物生産・販売事業者へ支援を拡大して、ビジネスチャンスを創出するとともに組織強化に努めます。

ゆざわ小町商工会

- 「ゆざわ小町地域」地場産業の新価値創造支援
- 観光資源の魅力向上による「ゆざわ小町地域」交流人口の拡大



会 長
佐藤 正明

抱 負

地場産品である「川連漆器」の大規模商談会出展を支援して、販路拡大及び利益創出に結びつけます。また、観光面では、豊富な観光資源を活かした交流人口増加に向け、他地域と連携した観光ルート開発に取り組めます。

羽後町商工会

- 地域資源を活かした羽後町ブランドの確立
- 地域連携・情報発信強化による羽後町の賑わい創出



会 長
柴田 知之

抱 負

観光庁事業をはじめとした各種補助金を活用して羽後町観光の高付加価値化に取り組んでいます。令和7年は、デジタルガイドマップを中心とした情報発信と中心市街地の活性化に向けた提案・取組を積極的に行っていきます。

東成瀬村商工会

- 成瀬ダムを核とした観光村づくり推進
- 東成瀬村の立地に対応した新たな販路拡大支援



会 長
古谷 秀克

抱 負

現在、令和6年11月で成瀬ダム堤体CSG打設が完了し、令和9年度の完成に向けてカウントダウンが始まっております。今後は、東成瀬村や関係機関とともに観光産業の発展を後押しし、事業者の販路拡大につなげたいと思います。





お知らせ



第64回商工会全国大会が開催されました

11月21日(木)、東京都渋谷区のNHKホールを会場に第64回商工会全国大会が開催されました。

この大会には、全国から約3,000名、本県からは54名の商工会長等が参加し、石破茂内閣総理大臣のビデオメッセージのほか、林芳正内閣官房長官、武藤容治経済産業大臣等のご挨拶がありました。

また、多数の国会議員、JA全中等関係機関の皆様を来賓として迎え行われました。

この大会の決議は次のとおりです。

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------|
| 1 中小企業・小規模事業者のための
大型経済対策の早期編成と実施 | 4 災害からの復旧・復興と災害対策の強化 |
| 2 日本経済の起爆剤となる地方創生の推進 | 5 事業者が活用しやすい各種制度の改正・拡充 |
| 3 小規模企業対策費の大幅拡充 | 6 地域唯一の経済団体である商工会の支援力
・組織力強化 |



全国大会の様子

商工会では国・県・市町村に要望を行いました

全県21商工会と県連合会は、「商工会成長プラン'22-26」に掲げる「事業者」と「地域」の発展を両立させるため、以下のとおり要望を行っています。

要 望 先

- ・衆議院議員 御法川信英氏、富樫博之氏、福原淳嗣氏、村岡敏英氏
- ・参議院議員 石井浩郎氏、進藤金日子氏
- ・秋田県知事 佐竹敬久氏
- ・市町村長等

主な内容

- 1 人手不足対策
 - ・省力化投資補助金のカタログ掲載製品の充実
 - ・賃上げを実施する事業者への助成金の拡充
 - ・社会保険料負担の軽減
 - ・外国人材の受入及び働きやすい環境整備への支援
- 2 価格転嫁対策
 - ・適正な価格転嫁ができる取引慣行定着の促進
- 3 インボイス制度への対応
 - ・インボイス少額特例の拡充
 - ・小規模事業者に対する負担軽減(2割特例)の経過措置の延長
- 4 地域経済活性化対策
 - ・県内21商工会及び県連合会が実施する地域経済活性化のための取組に対する補助金の創設



知事と商工会長との懇談会(12月13日)
吉原副会長が佐竹知事に要望書を提出

広 告

商工会員だけの大きな特典
商工会が提案する4つの安心サポート

商工貯蓄共済

経営指導
経営のトータルサポート

生命保障
万が一に備えた
リスク管理サポート

資金繰り
企業の資金繰り
サポート

貯 蓄
資産の充実
サポート

どちらも月々
2,000円
から

あなたも家族もまるごと守る!
頼れる補償の商工会の福祉共済

全国商工会会員福祉共済

「けが」の
補 償

「病気」の
補 償

「がん」の
補 償



※この紙は再生紙を使用しています。

発行所／秋田県商工会連合会 〒010-0923 秋田市旭北錦町1番47号秋田県商工会館内 電話／018-863-8491(代)
購読料／1部10円(会費を含む)